

ふくいわじびんこうかくりにっく

ふくいわ耳鼻咽喉科クリニック



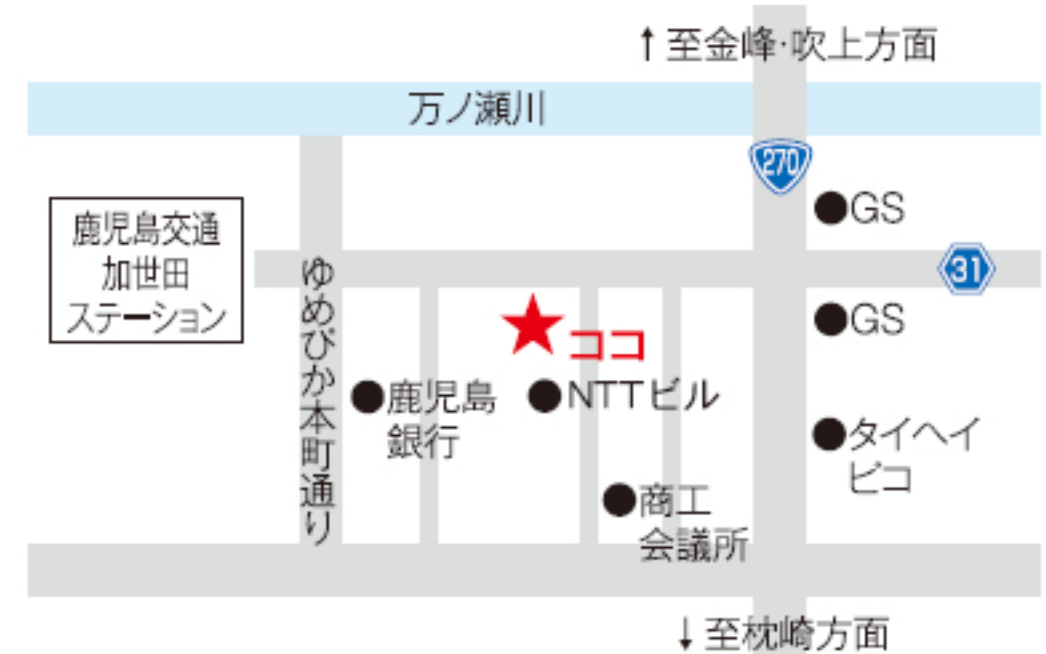
福岩 達哉 院長

Tatsuya Fukuiwa

Profile

加世田市(現・南さつま市)で出生。県立鶴丸高校卒業、鹿児島大学医学部卒業後、平成7年、鹿児島大学医学部耳鼻咽喉科学教室へ入局
平成12年 (財)癌研究会附属病院頭頸科研修
平成16年 米国アラバマ大学バーミングハム校(UAB)免疫ワクチンセンター留学
平成19年 鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師
平成20年 ふくいわ耳鼻咽喉科クリニック開院
平成22年 医療法人エターナル設立

- 医学博士
- 日本耳鼻咽喉科学会認定専門医
- 日本気管食道科学会認定専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本アレルギー学会認定専門医
- 日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医



ふくいわ耳鼻咽喉科クリニック DATA

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	○	○	○	／	○	○	／	／
14:00~18:00	○	○	○	／	○	☆	／	／

☆土曜午後は17:00まで受付

TEL0993-53-3387

- 住 所／南さつま市加世田本町22-5
- HP URL／http://www.fukuwa-clinic.com
- 駐 車 場／あり
- アクセス／指宿スカイライン谷山ICから車で30分
枕崎市街から車で25分
鹿児島交通線加世田ステーションから徒歩2分

に再生していくので、薬物療法と同じく根本的な治療ではありません。個人差はありますが、スギ花粉症の場合、効果はワンシーズンほどと考えていただいたら良いかと思います。しかしこれは日帰り手術で、効果が出やすい人は薬を飲まずにアレルギー性鼻炎の症状を抑えることができるという、非常に安全かつ有効性の高い治療法であり、保険も適用されます。薬を服用しても症状が改善しない方や薬を長く飲みたくない方、薬にかかる費用を抑えたい方、眠気など薬の副作用に悩んでいる方はもちろん、妊娠を望んでいる方や抗アレルギー剤を飲むことができない妊婦さんにもおすすめです。



温かみを感じるインテリアが患者さんを安心させてくれる。待合室には漫画や雑誌も豊富に揃う。

の機器を組み合わせて、アレルギー性鼻炎の日帰り手術に積極的に取り組んでいます。詳細は当院ウェブサイトをご覧ください。

ふくいわ耳鼻咽喉科クリニック

福岩達哉院長はこれまで、鹿児島大学付属病院の耳鼻咽喉科において、頭頸部外科や気管食道外科の治療(舌がん・咽喉頭がん・唾液腺がん・甲状腺がん)を専門としてきた。腫瘍手術や再建手術を手がける中で、早期発見や早期治療の重要性を痛感し、「一人でも多くの患者さんを救いたい」との思いを強め、平成20年に開業したのが「ふくいわ耳鼻咽喉科クリニック」だ。

0歳から100歳までの幅広い年齢層の患者さんに安心して診察を受けてもらえるように、プライバシーとホスピタリティを第一に考えた診察室や、キッズスペースの確保、漫画や雑誌の充実など、クリニック内の随所に患者さんの不安を和らげる工夫を施している。耳・鼻・のど・めまいなどの疾患から風邪の症状全般まで幅広く診療。内視鏡画像や電子カルテを用いながら、それぞれの症状に必要な検査や治療法、気になるレーザー手術の料金まで丁寧に説明してくれる。

また、大人とは違う症状が出ることも多い子どもに関しても、小児特有の耳鼻咽喉疾患を専門的に診てくれる。レーザー鼓膜切開装置OTOLAMを導入するなど、繰り返しがちな中耳炎などの治療にも注力。同クリニックは、遠方からも患者さんが訪れるほどの信頼と実績を得ている。



このページのテーマ

アレルギー性鼻炎 (花粉症を含む)

Q 鼻水が止まらず、頭痛にも悩まされています。風邪が長引いているだけなのでしょうか？
(29歳・女性)

A アレルギー性鼻炎の三大症状は、「くしゃみ・鼻水・鼻づまり」ですが、それ以外にも咳や喉のイガイガ感、頭痛、嗅覚障害、鼻出血、微熱など、風邪とよく似た症状を起こすこともあります。特にお子様の場合、鼻血や頭痛の合併例が多いです。風邪の場合、それらの症状が持続するのは数日で、水様性のサラッとした鼻水から膿性の黄色っぽい粘り気のある鼻水に変化するのに対し、アレルギー性鼻炎は1週間以上症状が続く、水様性の鼻水が持続するのが特徴です。他にも偏頭痛や副鼻腔炎とも混同されやすいので、きちんと検査をすることが大切です。アレルギー性鼻炎は、三大症状の有無と鼻内の粘膜の腫れや鼻汁の症状の診察、鼻汁の採取・染色、血液検査のすべてを調べて初めて、正しい診断を得ることが出来ます。さらに頭痛がある場合は副鼻腔炎の合併例かどうかを調べる必要がありますが、これは副鼻腔CTという画像診断を行えば確実にわかります。アレルギー性鼻炎はこうした最初の診断が非常に重要なので、自己判断はせずにきちんと調べてもらいましょう。

Q アレルギー性鼻炎と診断されて薬を処方されたのですが、ずっと飲み続けなければいけませんか？
(32歳・女性)

A アレルギーの原因物質であるアレルギー(ハウスダスト、スギ花粉など)が増えやすい時期を把握し、きちんと環境整備していれば、薬は最小限に抑えることができます。そのためには血液検査でアレルギーが特定できたら、普段の生活でなるべくその原因を排除するように心がけて下さい。例えばハウスダスト・ダニアレルギーなら、室内の拭き掃除、布団の乾燥を徹底しましょう。空気清浄機の使用も効果的です。ダニは7月に繁殖し、9月に脱皮します。高温多湿で繁殖するので、室温を25℃以下、湿度を60%以下に保ちましょう。スギ花粉症



適切な治療を施すためには優れた検査機器が不可欠。全身用マルチスライスCTで全身を精査。遠隔画像診断センターと連携して診断

は飛散のピークとなる正午〜午後3時の外出時にはマスク着用し、洗濯物は室内干しに、帰宅時にはコートを払って花粉を落としましょう。鹿児島県におけるスギ花粉の飛散は2月〜4月上旬がピークですが、例えばヒノキ花粉はスギ花粉から1か月遅れて飛散するなど、花粉は植物によって飛散時期が異なるので、確認しておいて下さい。スギ花粉症は飛散開始予測日の2週間前から薬を内服する「初期療法」という方法で、症状をかなり抑えることができます。花粉飛散が本格化してから始めても効果が出るのに時間がかかり、薬も複数組み合わせる必要があるのに対し、初期療法では1種類で済み、たとえ症状が出たとしても軽度で済みます。

Q 薬を服用しなくてもアレルギー性鼻炎がおさまる方法はありませんか？
(42歳・女性)

A 薬物療法と免疫療法の違い、が手術です。アレルギー性鼻炎は、アレルギーの原因となる物質が鼻の粘膜に付着して、免疫応答(アレルギー反応)を起こすことでくしゃみや鼻水などの症状が出ます。手術療法とは、鼻粘膜をレーザー等で焼いて変性・萎縮させることでアレルギー反応が起こらないようにするというものです。一度焼かれた鼻粘膜は、免疫応答に関与する肥満細胞や鼻汁に関係する粘液腺細胞が減少しているため、アレルギーが鼻に侵入してもアレルギー反応が起きないのです。ただ体内に免疫応答がある限り、アレルギー反応を起こす粘膜は徐々に



完全個室の診察室で、プライバシーも厳守

花粉症をはじめとするアレルギー性鼻炎に悩む人は多いはず。止まらなくくしゃみや鼻水、そんな不快な症状を改善する治療法について、アレルギー専門医の福岩達哉Dr.にお話を伺いました。薬を飲みたくない人、必見です！